



PRS HDRX 100 & 50

AMPLIFIERS



HDRX
100

POWER
ON



INDICATOR

PRESENCE



BASS



MIDDLE



HIGH MID
3A



TREBLE



BRIGHT
BRIGHT
OFF



TREBLE
VOLUME

BASS
VOLUME



私 (Paul Reed Smith) が10代の頃、兄が一枚のレコードを手に入れました。

そんなある日、兄が外出した隙に、私は兄の部屋へ入り、そのアルバムジャケット (後に、Jimi Hendrixの“Are You Experienced.”だと知る) を見つけました。そして、兄の許可を得ることなく、レコードの封を開けて、聴いてしまいました。曲を聴きながら、私は心の底からギターを弾けるようになりたいと思いました。

それが私にとってひとつのきっかけとなったのは間違いありません。

当時、ギタリストを含む、多くの人がそうだったように、私もJimi Hendrixの音楽とそのサウンドに心を奪われ、多大な影響を受けた一人でした。

そんな私とDoug (PRS Amp Designer) が、シアトルにあるThe Museum of Pop Cultureに展示されていたJimi Hendrixが個人的に所有し、ツアーでも実際に使用していた、伝説のヴィンテージアンプを、自分達の手で開けて、回路やパーツを研究する話をいただいた時、断る理由は何ひとつありませんでした。

そして、その伝説のアンプのサウンドを再現するべく最初のプロトタイプの回路を設計し、サウンドチェックをした時、Jimi Hendrixに近いサウンドが、自分たちの目の前で鳴っている事にとっても感動しました。

Jimi Hendrixのアンプを解析し始めると、その回路図上には実際にどの部分に手が加えられたのか、そして、その時に何のパーツが使われたのかまでが、こと細かく書き込まれていました。

また、私たちは、HDXの開発にあたり、この伝説のアンプが大幅にモディファイされているという事だけでなく、1960年代の音楽シーンに大きな影響を与え、そして、よりサウンドに直結するものとして、このアンプと一緒に使用されていたペダルなどの周辺の機材も注目しなければなりませんでした。

大幅なモディファイと申し上げましたが、PRS HDXの回路は、むやみやたらに複雑なものになっているわけではなく、ヴィンテージアンプのオリジナル回路の歴史的観点にも配慮し、残す意義のある箇所には手を加えることはしませんでした。そして、この回路は現代においても入手が可能なパーツの中から厳選されたパーツのみで組み上げられ、PRSとして培ってきた経験をもとに、安定していて、安全かつ非常にシンプルな設計になっています。その結果、卓越したビルドクオリティと、力強いサウンドを兼ね備えた、素晴らしいアンプに仕上がりました。

アンプというのはひとつの楽器であり、プレイヤーの指先や、ギター、ペダルから紡ぎ出されるサウンドを増幅させるのが本来のアンプ役割ですが、HDXシリーズのアンプはそれだけにとどまりません。HDXのアンプ開発は、まさに音楽の歴史の探求であり、伝説的なサウンドへの敬意を表することであり、同時にJimi Hendrixが音楽に与えた功績を我々(PRS)なりの形で称えることでした。

この場を借りて、このアンプを開発するプロジェクトにご協力いただいたThe Museum of Pop CultureとJanie Hendrixに改めて感謝申し上げます。

そして、ここStevensvilleで1台1台職人の手によって組み上げられているこのアンプが、皆さんのミュージックライフに更なる発見と喜びをもたらしてくれる事を心から願っています。

A handwritten signature in black ink that reads "Paul Reed Smith" with a registered trademark symbol (®) at the end.



PAUL REED SMITH AND DOUG SEWELL

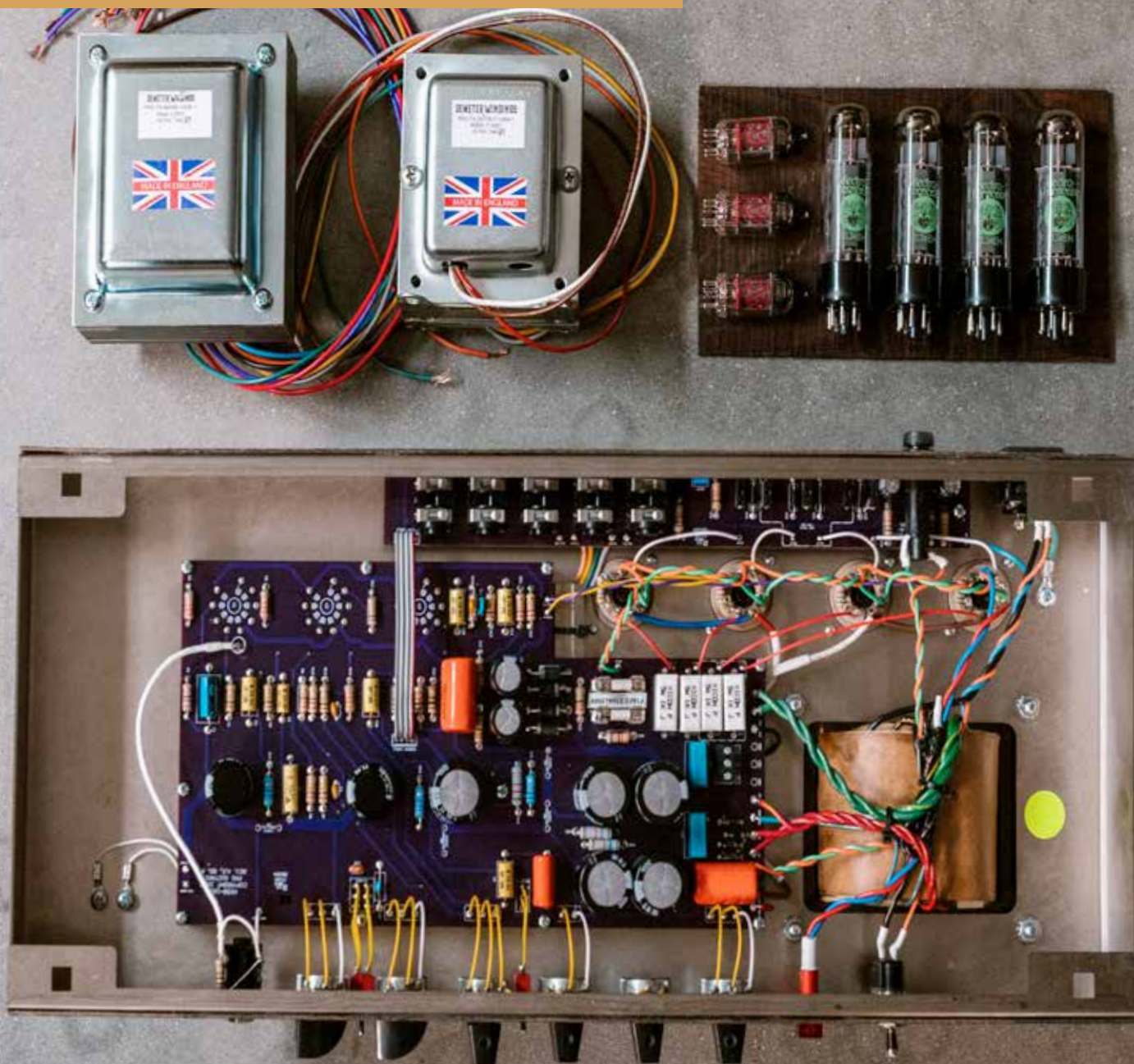
2006年、Paul Reed Smithはダラスで行われたヴィンテージギターショーでテキサスのアンプビルダーDoug Sewellと出会いました。当時、Paul's bandの演奏が予定されており、Paulは使用するアンプを探していました。そこで紹介されたのがSewellでした。

「彼のアンプの音が素晴らしくて、挨拶もそこそこに、私たちはショーで使う予定だったアンプの配線に手を加えていました。」
- Paul Reed Smith

出会ってから程なくして、DougはPRSでPaulと働くため、メリーランドへ移住しました。

以来、SewellとPaulはアンプ回路のプロトタイプを組み上げては、そのサウンドを確認し、改善点を見つけることを何年も繰り返し、ついにHDRXアンプを完成させました。常に目指すゴールは、他の楽器作りと変わることなく、ミュージシャンのために使いやすい楽器を作り出すことでした。

TECHNICAL SPECIFICATIONS



・Power & Preamp Tubes

真空管の組み合わせを厳選した結果、HDRXアンプは、New Sensor EL34EHのマッチドペアのパワー管、そしてプリ管にはJJ ECC803Sが搭載されています。各プリ管は下記の通りにアサインされています。

V1 : Input

V2 : Cathode Follower

V3 : Phase Invertor

・Circuit & Power Supply

HDRXの回路は、PRSが解析したJimi Hendrix本人所有のアンプ回路を元に設計され、更にこのアンプの開発にあたり、数多くのヴィンテージアンプがリファレンス用として使用され、その試行錯誤の結果、遂に「あのサウンド」を手に入れることができました。

加えて、HRDX100と50では、出力トランスのサウンドをオリジナルに近づけるため、独自のマッチング回路を使用しています。

更にHDRX50には、出力100Wのヴィンテージアンプと同等の電源が使われており、それにより、通常の50wのアンプよりも遥かに100wのニュアンスに近いサウンドになる事を可能にしました。

更に、この独自に設計された電源回路により、驚異的な低ノイズも実現しています。

・Output Transformer

本機には、カスタムメイドのStraight Edge出力トランスフォーマーが搭載されています。数多い選択肢の中から厳選されたメーカーにおいて、設計及び製造されたこのトランスにより、60年代後半に使われていたオリジナルのサウンドを、見事に再現する事ができました。

・Chassis

PRS HDRXアンプは、アーティストのツアー使用なども前提にして、長時間の使用における耐久性を考慮し、あえてアルミニウムではなく、0.0060”のスチール製のシャーシを採用しています。また、使用されるスチールには、全て腐食を防ぐ処理が施されています。

・Circuit Boards

2オンス銅を使用した2mm厚の両面スルーホール基板を使用し、オリジナルアンプとの一貫性、グラウンドの落とし方、耐久性の向上を考慮し、独自のタグボード構造が採用されています。

・Built with Serviceability in Mind*

バイアスジャックとバイアス調整ノブが背面パネルにレイアウトされているため、シャーシを取り出さずにパワー管にかかっている電圧の数値(mV)を簡単に測定し、真空管の状態を確認することができます。なお、PRSではマッチドペアのパワー管を採用しているため、バイアス調整コントロールを回すと、全てのパワー管に有効となります。

*パワー管の適正電圧は30mVあたりになりますが、バイアス調整やパワー管の交換を行う際は、必ず専門の技術者に依頼してください。または、購入された販売店へ事前に必ずご相談ください。

・Note on Loudness/Volume

本機は、アンプ本体でクランクアップしたサウンドをる為にヴォリュームアッテネーターの使用をする場合、当社の推奨アッテネーターはKoch Loadbox LB120 II / UNIVERSL AUDIO OX / Torpedo Captor/Torpedo Reload等になります。

*ロードボックスには必ず対応インピーダンスがございます。必ず使用するキャビネットのΩ数をご確認の上で適正なモデルをご使用ください。

FRONT PANEL

Paul Reed Smith®

HDRX
100

POWER
ON



INDICATOR

PRESENCE



BASS



MIDDLE



HIGH MID
GAIN



TREBLE



TREBLE
VOLUME



HDRX 100



INDICATOR



HIGH MID
GAIN
4



INPUT

1

2

3

4

5

6

7

1. Power On

本機には、2WAYのON/OFF電源スイッチが搭載されています。60年代のアンプに見られるこの仕様では、ハイパワーコンデンサーを使用した設計になっており、スタンバイスイッチは非搭載となります。

そのため、アンプの音をミュートする場合は、インプットジャックに接続されているプラグ（ケーブル）を、クリック音が一回するまでゆっくりと抜いてください。

2. Presence

プレゼンスコントロールは回路上のパワーアンプセクションに位置し、フィードバックのコントロールにも効果的です。このノブを回していくと、ハイミッドとトレブルの帯域が持ち上がります。プリアンプのトーンとヴォリュームのセッティングにもよりますが、プレゼンスコントロールによって、ヴォリューム感や音の硬さ、および高音域の質感が変わり、よりレンジの広いサウンドになります。

3. TMB Tone Stack

本機では、60年代に使用されていた伝説のヴィンテージアンプのプリアンプトーンを解析しています。故に、トレブル/ミドル/ベースの

3トーンコントロールとなります。このコントロールセクションは、回路的にはプリアンプの後段に位置し、厚みのある低音、芳醇な中音域、そしてクリスタルクリアな高域を持ち合わせています。

4. High-Mid Gain Switch

PRSがJimi Hendrixのアンプを解析する限り、歴史的に見て、Hendrixのアンプには、アンプのゲインやボイスの核となるコンデンサーが搭載されているものと、そうでないものがありました。そこで本機では、そのコンデンサーをこのスイッチに落とし込みました。

結果、プレイヤーはそのコンデンサーをスイッチ一つで簡単に回路から外すことも、加えることもできます。

このスイッチをアップポジションにすることにより、中音域がより強く押し出されます。

5. Individual Treble & Bass Volumes

伝説のヴィンテージアンプのインプット1&2をブリッジ接続した状態と同様に、内部でブリッジされた各チャンネルのヴォリュームをコントロールすることが出来ます。

トレブルとベースチャンネルのヴォリュームを別々に調整することにより、全体のトーンから

歪みの具合に至るまで、より細かく設定することができます。

6. 3-Way Bright Switch

本機には3-way(off/on/on)ブライトスイッチが搭載されています。なお、BRIGHT1の位置で通常のブライトスイッチの効果を得ることができ、BRIGHT2の位置にすると、さらに高音域がブーストさるため、小音量で使用する際も、高音域をしっかりと押し出した煌びやかなサウンドを得ることができます。

7. Input

PRSが解析したJimi Hendrix所有の伝説のヴィンテージアンプには4つのインプットが付いていましたが、このようなアンプは、多くの場合、チャンネルをジャンプしてふたつのチャンネルをミックスしながら使用されます。そこで本機では、トレブルチャンネルとベースチャンネルが内部でブリッジ接続され、ジャンパーケーブルが不要となるため、シングルインプットの仕様となります。

アンプデザイナーとして、このアンプの開発プロジェクトに関わる機会を得られたことは、とても光栄なことでした。このアンプに対して、私は初日から最大限の敬意をもって取り組んできました。そしてこのプロジェクトは、発売する期日までに完成させるというスケジュールありきではなく、このアンプの開発に取り組むことの重要性にこそ、大きな意義がありました。技術的かつサウンド的な観点から、設計段階では、トランスのブランドやデザイン、パワー管のブランドやモデル、プリ菅、コンデンサーのブランドや種類、シャーシの素材に至るまで、ありとあらゆるパーツの選択肢や組み合わせを検討しました。常に一番大事なのは、どれだけ時間がかかろうとも、このアンプに最適なパーツを選択し、可能な限りオリジナルに忠実なサウンドに仕上げることです。また、アンプのデザインを進めながら、我々は、Paul Reed Smithを始めとする、素晴らしい音楽的感性と経験をもったアーティスト達と回路を検証していきました。最終的なデザインは長い時間をかけてようやく完成しましたが、このアンプには音楽の歴史が反映されていると思います。自分の力を全て出し切った結果、Jimi Hendrix氏が生前アンプに求めているサウンドエッセンスをこのアンプにも詰め込むことできたと思います。



Doug Sewell

PRS Amp Designer

PRSアンプの使用について

1. スピーカー、またはスピーカーキャビネットが高品質なスピーカーケーブルで、アンプのスピーカーアウトプットジャックと適切なインピーダンスで接続されていることをご確認ください。
2. 電源ケーブルが、グラウンド（アース）が取れている電源コンセントに接続されていることをご確認ください。
3. アンプを使用していると、徐々に本体が熱を持ちます。そのため、少なくともアンプの周辺15cmは、アンプの熱を逃がすスペースとして確保してください。アンプを壁や他の機材に隙間なく寄せて使用すること、また、他のアンプやストーブなど、熱源となるものの近くでの使用はおやめください。使用中、アンプの背面にカーテンなど、可燃物を置くことはおやめください。アンプ本体を布などで覆うなど、熱を逃がすことを妨げる行為はおやめください。アンプ上部にドリンクなどを置くことはおやめください。
4. 本製品はスタンバイスイッチを搭載せず、電源スイッチのみでアンプの主電源が入り、演奏出来るように設計されています。もしアンプの音をミュートする場合は、インプットジャックに接続されているケーブルを、クリック音が一回するまでゆっくりと抜いてください。
5. 本製品は大きな音量を出す設計になっているため、アンプの電源を入れる前に、必ずボリュームとマスターボリュームがゼロになっていることを確認してください。ギターケーブルをインプットジャックにしっかり差し込んだことを確認の上、ボリュームとマスターボリュームを徐々に上げて音量を調節してください。

本製品では大音量での演奏が可能ですが、長時間の演奏は聴覚に支障をきたす可能性があるため、ご注意ください。また、本製品に異常を感じた場合、必ず直ぐに使用を中止し、購入された販売店へ連絡の上、Paul Reed Smith Guitars Japanカスタマーサービスへご連絡ください。ご自身で修理を試みることは、安全上の観点から絶対におやめください。本製品を使用する際は、必ずグラウンド（アース）が取れている電源コンセントに接続されていることをご確認ください。



Images of Jimi Hendrix's 1969 Marshall Super Lead amplifier, Museum of Pop Culture permanent collection, Seattle, WA.

left to right/top to bottom:

1. Late '68, early '69 chassis configuration with added voltage selector
2. Two extra output jacks – used on export models
3. “West Coast Organ and Amp Service” sticker, Hendrix’s West Coast amp modder, as seen on Woodstock amps 4 & 5.
4. Classic Hendrix touring-amp stenciling
5. Cool mix of Mustard and Wima Tropyfol coupling capacitors
6. West Coast Organ and Amp Service “cherry-picked” power transformer replacement

Photos: Doug Sewell, PRS Amp Designer

ARTIST ACCOLADES

これは素晴らしいアンプだね！
プラグインして、EQを絞り気味にして、ヴォリュームノブと
ブライトスイッチを好みにセッティングすれば、もうそれだけで最高のサウンドが出来上がる。
このアンプは、ギターやピックアップの違い、それにギター本体のボリューム、
トーンのコントロールにもちゃんと追従してくれる。
そういうアンプこそが、まさに良いアンプである証なんだ。

- Butch Walker

PRS HDRXアンプは半世紀以上親しまれたデザインを踏襲しつつも、
現代に相応しいモダンなデザインになっているよね。
十分に広いヘッドルームが確保されているから、パワー感、ダイナミクス、トーン、
どれをとっても最高のバランスだね。まさに音のビーストだよ。

- Myles Kennedy

僕はJimi Hendrixの熱狂的なファンだけど、このアンプのサウンドには完全にやられたよ！
当時のJimiが求めていたサウンドニュアンスを残しつつも、そこからさらに進化したアンプだね！

- Chris Robertson

このアンプは凄い！各EQノブが狙っている周波数帯も素晴らしいし、ペダルとの相性も良いし、
クランクアップさせても良いし、クリーントーンは本当に最高だよ。

- Justin Derrico



HDRXは信じられないくらい最高のアンプだよ。
ただパワーがあるだけじゃなくて、繊細なピッキングニュアンスにも
しっかりとついてきてくれるんだ。僕が普段使っているペダルを、
エフェクトループを使わずに、直列に繋いでも素晴らしい音が出せるんだ。

– Mark Lettieri



PRS HDRX 100 & 50

AMPLIFIERS



PRG PAUL
REED
SMITH
GUITARS®



Jimi Hendrix

We would like to thank The Museum of Pop Culture in Seattle, Washington and Janie Hendrix for their support of this project.

製品に関するお問い合わせ

Paul Reed Smith Guitars Japan カスタマーサービス
support@prsguitars.co.jp

2022年7月作成